

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
自分の専門分野だけでなく、幅広く情報収集を行えばよかったと思います。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

何か一つ没頭できるものを見つけて、エネルギーを注いでください。その経験が今後の糧になると思います。

連絡先 E-mail: taku.kato@asahibeer.co.jp

Interview ②

株式会社資生堂 生産技術開発センター

高木 一輝



出身大学・卒業年度：大阪大学大学院工学研究科 2009年 博士後期課程修了

博士論文タイトル：寄生植物ヤセウツボのフィトクロム応答およびフィトクロムAホモログの機能に関する研究

「現在の仕事について」

◆担当職務

- ・化粧品原料となる原料植物の生産に関わる技術開発
- ・植物の生長調節に関わる低分子化合物（KODA）の作用に関わる研究開発

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

2009年4月～2011年3月

生物系特定産業技術研究支援センター主管「生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業」にて、ポスドクとして着任。研究参画企業であった株式会社資生堂にて植物の生長調節に関わる低分子化合物である KODA (9-hydroxy-10-oxo-12(Z),15(Z)-octadecadienoic acid) の製造方法に関わる研究開発に携わる。

2011年4月～2012年3月 基盤研究

株式会社資生堂入社。（2011年4月）

植物に対する KODA の効果と作用メカニズムに関する研究開発。

2012年4月～2015年4月現在 生産技術開発

植物に対する KODA の効果と作用メカニズムに関する研究開発。化粧品に使用されている植物由来エキスなどの原料植物の生産に関わる技術開発。

◆そこでのやりがい

メーカーとして、お客さまに価値・感動をお届けするという使命があり、これを達成するためにさまざまな業務目標が細分化されて設定されています。個人レベルでこなす業務が、そのまま目に見える形で世に出ることはなかなかありませんが、自分の関わった業務が何らかの形

で世に出た時には、やはりやっていたよかったなとやりがいを感じます。たとえば、現在の部署では化粧品の原料となる原料植物の生産に対して、どこでどのように育てられたのかといった原料植物の生い立ちのストーリーを製品情報につなげる活動をしてきました。この活動の結果、生い立ちが明確なこだわりの原料植物を使用した製品が世に出ましたが、その製品を実際に手にした時には、やっていたよかったなあとしみじみ思いました。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

- ・社員同士の人間関係がとても良好
- ・良くも悪くも妥協がない
- ・「いい人（尊敬できる人）」が多いと思います。（私がまだまだ至らないせいか）

◆現在の就職を決めた理由

まず基盤研究の幅の広さが魅力でした。また、チャレンジングな研究・開発が行われていると感じたことと、新しいことに鋭敏な会社の風土があるといった点に魅力を感じました。

また、周りの社員の人のよさと、そのような職場環境で働きたいと感じたのが当社を選んだ理由です。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

研究開発で定年まで行けたらよいかなと思っています。メーカーにとって、研究開発はモノづくりの原点ですので、その部分で貢献したいと考えています。研究開発に携わっていると、お客さまとは距離的に遠くはなりがちですが、その分自分の研究や技術開発の成果で、世界中のお客さまに喜んでいただき、世界を笑顔で満たしたいものだと思っています。

◆挑戦したいと思っていること

新規かつ持続性のある事業基盤の技術シーズを作りたいと思っています。現代は「異業種参入」という言葉が違和感なく使われているくらいに産業が流動化しています。そのような環境下だからこそ攻めの姿勢で新たな技術シーズを開発し、大きな事業につなげたいと思っています。

◆社会人として一番感動したこと

やはりお客さまに褒めて頂いたり、いいねと言っていただけの瞬間はとても感動します。たとえば、私たちは現在、化粧品原料となる植物を実際に育てており、育てた植物や部署の取組みを見学者の方に見ていただく機会があります。我々は、化粧品と植物のつながりや植物の良いイメージなどを見学者の方に「感動」という形でお伝えしたいので、日々その伝え方を試行錯誤していますが、見学者の方から「いいなあ!」「わあ!すごい!」「かわい!」といったコメントを頂く時が一番感動します。

◆仕事のプロになるコツ

人脈形成だと思います。仕事を進める上で、自分の知っている専門分野以外の情報や技術が必要になることはそれほど珍しいことではありません。このような時には必ず必要な情報を持っている人に聞いたりしないと、仕事は前に進みません。このため、自分の持っている人脈が、そのまま自分の仕事のできる範囲となると考えています。このように仕事を進める上では、他の人の協力が必要になってきますので、周りの人をよく知り、大切にすること、これが重要だと思います。また、常日頃から良好な人間関係を築く、維持することに心がけることがその前提になるかと思っています。誰でも仕事は気持ち良くしたいと思っているでしょうから。

◆博士力、どこで発揮していますか？

やはり専門性といったところが一番だと思います。これはやはり一朝一夕で身につく物ではないので、これまで費やしてきた時間がそのまま武器になっていると思います。たとえば、現在の職場では、植物を専門に扱ってきた経験がないメンバーもいますので、植物に関する知識を付けるための勉強会を開催し、メンバーの知識向上に一役買ったりしています。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

重い質問ですね。やはり一番の目的は現代社会の中で生き抜いていくためだと思います。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

経済的な自立とでもいいましょうか。お金を稼げないと

生活が成り立ちませんから。ただ、重要だと考えていることは、頂いたお給料や、研究開発費に代表される会社で使用する費用も含めてですが、だれに頂いているか？ということだと思います。形式上会社が支払っているというのは事実ですが、元をたどればお客さまから頂いたお金です。製品やサービスに対するお客さまの期待が、お給料や会社経費となっていると考えていますので、お金を稼ぐ意味とはお客さまの期待に応えることだと思います。

◆ワークライフバランスで工夫していること

残業はしすぎないようにする。私生活に仕事は持ち込まない。といったところですが、ふと気付くと仕事のことを考えていたりします。ただ、仕事と自分との距離を適切に保つことが重要だと思います。近すぎず、離れすぎずといったところです。

◆現在の夢

自分の携わっている業務の成果が、日の目を見ることです。

◆将来の展望

定年まで第一線で研究開発を続けていきたいと思いますが、いずれ、若手に道を譲れと言われると思いますが、それでも第一線で頑張りたいと思います。簡単には譲りません。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

たくさんありすぎて、書ききれません。ただ、今現在、自分がやりたいことをできているか？を意識することは大事だと思います。できていても、できていなくても時間は過ぎていきますから。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

海外で開催される国際学会に、チャンスがあればどんどん参加したほうがよいと思います。学会に参加するだけでなく、ちょっと足を延ばして、その土地の文化・風習に直接触れることで、見分と見識を広めることが後々財産になります。また、国際学会ではさまざまな国々の方々が出席されますので、バックグラウンドとして異なる文化・風習を持った方々とコミュニケーションするのも考え方や、感じ方の違いを知るという点で重要だと思います。社会はさまざまな価値観で構成されていますので、その幅を広げておくとな自分のとれる選択肢が広がると思いますので、種々雑多な体験・経験をしてください。

連絡先 E-mail: kazuteru.takagi@to.shiseido.co.jp